明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年十二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正六年七月二十五日發行

婦人衛生雑誌

第三百三十二號

婦人衛生雜誌

第三百三十二號目次

謹告

來る八月及び九月の兩月は本會規則に依り例年の通り休會致候也
暑中特に會員諸姉の健康を祈る

大正六年七月

私立大日本婦人衞生會

私立 大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んをいと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立 大日本婦人衞生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手數料金二錢なり）入會後族籍等に變更あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ總裁は宮殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる件を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二縱覽出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員を設くることを得●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　會長は例會總會及評議員會は八九月の際を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し必要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め開遊會を開くことあるべし●第十七條　會員學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を請ひ會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を紹介して本會の場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條 [illegible] 支決算並に庶務の概要 [illegible] 有金は本會の名義を以て三井銀行に預く [illegible] 收支は總て會計掛任の幹事檢印を要する [illegible] ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし [illegible] 支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得 [illegible] 員にして支會を設立せんとするときは [illegible] 亦同じ [illegible] すべし [illegible] 納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衞生會

講演

佛蘭西に於ける見聞談

醫學博士　茂木藏之助述

今日は何か御婦人方に有益なお話を申上げなければならぬのでありますが、私は向に居りましても毎日毎日忙がしい日ばかりで、さう云ふ方面の事を觀察し一般の事に就て取調べると云ふやうなことも出來なかつたので、折角遠くまで行て、滅多に無い戰爭の時期に懸つたにも拘はらず、ろくなお土産話も出來ないのでありますが、併し折角の御依賴でありますから、多少ながら見聞した事或は感じた事だけを一寸お話致したいと思ひます。

此度の戰爭は實に古今未曾有の大戰爭で、誰しもこんなに長く掛からうとは思つて居りませんでした、歐羅巴の經濟學者なぞは、殊に佛蘭西あたりでは、此戰爭は大きくならずに濟むだらう、若し此戰爭が半年以上も續くと世界的の變亂であると公に議論を立てたのであるが、此戰爭はまた何時治まるか解らぬと云ふやうな勢であります。

佛蘭西は此戰爭の始まる前から獨逸に恨が有るので、それは彼の有名な四十六年ばかり前の戰爭で佛蘭西は獨逸の爲めにアルサスローレン州を奪はれて仕舞つたと云ふ怨があつたので、どうかして此怨を晴さなければならぬと佛蘭西では常に口癖のやうに言うて居つた位でありますから、何時か機會を得て恨を霽らし、其時に奪はれたアルサスローレンスを何うかして獨逸人の手から取返さなければならぬと始終言つて居つたのでありますが、共和政體の悲し

さに思ふ通りにならず、手も出されず、準備もしないで日を送つて居つたのである。然るに獨逸の方にあつては辣腕のカイゼルが自分の思ふ通りに畫策して居つたのであります。段々いろ／＼な事を聞いて見ると隨分人の考の及ばぬまで準備をして居つたのであります。例へば歐羅巴各國の旅行案内なぞを見ても各種の事柄を非常に詳しく記載して居つて、此案内書を作るのに獨逸の政府では非常な金を要けて取調べたのでありまして、其結果は旅行案内書に表はれて居るばかりでなく、非常にいろ／＼な所まで取調べてある。或人は獨逸人は佛蘭西人よりはもつと能く佛蘭西の内情を知つて居ると評して居つた位非常に能く調べて居つたのであります。

それから佛蘭西と獨逸との國境で獨逸人が地面を買て「テニスコート」を拵へたのが澤山あつた、此場所が戰爭が始まつて直に砲臺の役に立つたと云ふことであるが、さう云ふやうな所まで何時戰爭があつても直に砲臺に出來るやうになつて居つたのであります。それから獨逸では鐵道でも電信でもいろ／＼の設備が聯絡して居つて、何か事が有るとそれで直ぐ戰の役に立つと云ふやうにしてあつたので、それも直接行ると疑はれると云ふので、間接に其う云ふ仕組を行つて居つた、巴里にいろ／＼な事が有ると、直接に解らないで却て獨逸に間接に直ぐ解つて仕舞うと云ふ風であつたのであります。

それから又獨逸の所々の公園に「ベンチ」が澤山ありましたのがいざ戰爭となると直ぐそれが汽車の中に運ばれる。其「ベンチ」はちやんと汽車の寸法に合うやうに前々から量つて出來て居つたと云ふやうな風にいろ／＼の準備がしてあつたのであります。又獨逸では汽車が非常に方々に敷いてあつて、平時では殆んど交通の無い位の田舍だの、人の行場の無いやうな所にも澤山の「レール」が敷いてあつて平素は草が澤山生へて鐵が錆びて居ると云ふ有樣で、何の爲めに斯んなものを敷いてあるのかと疑かつて居つた位であるが、今戰爭が始まると其赤くなつて居た線

路の銹が何時の間にか除れて、それが直ぐ役に立つと云ふやうな有様であつて、實に今度の戰爭に於て獨逸人の强さは解らない位で、或る人は斯くの如く獨逸人の戰爭の上手なのは全く交通機關が重なる原因を爲して居るのであると言つて居つた、さう云ふ風で、獨逸は常に戰爭の始まらぬ前からちやんとさう云ふ方法を講じて準備を爲ると云ふ、能く小さい所にまで注意して居つたのであるのに、一方の佛蘭西では獨逸のやうな注意はして居りませぬから、一旦戰爭が開始されると、獨逸軍は潮の如く佛蘭西に押寄せて來たので、若し佛蘭西と獨逸の間に在つた白耳義が起つて一寸でも邪魔を爲ることがなかつたなら、巴里は忽ち七十年戰爭のやうな慘憺たる戰史を繰返すことは言ふまでもないのである。ところが幸にベルギーが立つて一週間ばかり邪魔をして居る間に佛蘭西の方では頓にいろ／＼な準備をして三日間にマルヌと云ふ巴里から十數哩の所まで軍隊を出して防ぐことが出來たので、此際に於ける巴里の市内は實に非常な騷で、其時の日本人の話を聞くと眞に眼も當てられぬ程の狼狽で、自分等の都は獨逸の爲めに占領さるゝのであらうと言つて周章てゝ逃げて居つた位であつたさうですが、幸にもマルヌと云ふ處で勝つたので大層悦んで、巴里に居る人ばかりでなく佛蘭西全體の人は殆んど狂氣の如く悦んでお祝をしたと云ふやうな有様であつたさうで、或人は是は眞に人間の力ではなく、全く神様の同情に依つて勝つたのであると言つて居つたのですが、マルヌの戰に勝つたのは豫想外に思つたのであります。兎に角勢込んでやつたので、獨逸を攻めるには眞に佛蘭西は一生懸命にならなければならぬと言つて、總ての準備等もやつた爲めに、今日では佛蘭西は聯合軍中の重もなる役目を脊負つて起つて居ります。斯樣に軍備の方面に於ても初めは不完全であつたのが良くなつて來たと同時にいろ／＼の救護事業等も備はつて來ましたが、最初は負傷した者が一週間も十日も手當を加へられずに「ベッド」も何も無い所に

唯ごろ〳〵藥の上に臥かしてあると云ふ風で、隨分其頃は眼も當てられぬと云ふやうな有樣であつたさうですが、もう此頃ではちやんと夫等の設備も完全に出來まして、以前とはまるで違うと云ふやうな譯になつて居ります。

彼樣な工合でございまするが、戰爭に就て佛蘭西の女の方には何う云ふ風に働いて居られるかと申しますと、是は前にも申上げた通り私は十分に調べたのでありませぬから、唯斷片的の話に過ぎないのでありますが、先づ巴里に行つて眼に著く事は非常に若い男が少くなつて女が多いと云ふことで、偶に男が居つても老人や外國人――米國人位であつて、男が非常に少いと云ふことが直に眼に著いたのであります。それから喪服を著て居る婦人が多い。或人は評して、巴里は喪の街であると言はれたさうですが、其位澤山喪服を著て居る人がある。話を聞いて見ると一家族或は親族中で殆んど誰か死なぬ人は無いと云ふ位で、甚しいのは一族中三人も戰場で死んで居ると云ふやうなのがある、乃木さんのやうに息子二人共今度の戰爭で死んで居ると云ふやうな將軍もあります。

それから又巴里では、例へば電車の車掌であるとか或は汽車の切符截りであるとか、自働車の運轉手であるとか云うやうな者までも婦人が働いて居るので、平時と異つて女の爲る事が殆んど倍多くなつて來て、交通機關の事までも行つて居り、又其外澤山な工場なぞにも女で間に合ふ仕事は婦人を使つて居つて砲彈とか火藥類なぞを作るのでも女の手で準備を爲ると云ふ風であつて、兎に角何んでも女の手で行れるだけの仕事は皆女が行つて居るのであります。隨分戰爭當時は婦人が自分等の衣食の爲めに困まつて居つた者もあつたのが、此頃では下層の婦人逹は戰爭の餘澤を被つて大分な仕事が出來た爲めに、今までにない位なお金を取れるものですから、却て困まつて居らないと云ふ現象が出て來て居るのであります。

それから又一般に主人が工場に勤めて居つたのが戰爭に行つて仕舞つた後は、出來るだけ家内を補助して、女に出來得る職を與へると云ふ風にして、餘り家計に窮して居る者には政府から多少ながら補助金がございますが、困まつて居る者が大分あるだらうと思うて居るのに割に補助金を吳れろと申出る者がないさうであります、それは自分で働いてお金を取るからそれ程困まらない譯で、畢竟政府からの補助金を仰ぐと云ふやうな者も少いと云ふことであります。さう云ふ風にいろ／＼な方面の職業を婦人が行つて居るから、平素よりも澤山な金が取れる所から斯う云ふやうな事になつて居るのであらうと思ひます。それで又一般の救護事業も主として婦人の手に成つて居るので、目下本職の看護婦の手が足りないと云ふだけであつて、篤志の婦人が非常に能く働かれて居る　自分で看護婦の養成所を作つて看護婦を養成して居られる者もありますし、自分だけが働いて居られると云ふ者もあります、私共の知つて居る方で元とナポレオン三世の居城を別莊にして居られる人ですが、其人が大きな病院を田舍に建てゝ、巴里の街では大きな養成所を作つて自分は其方に行つたり此方に來たりして働いて居られると云ふやうな風に非常に活動して居られる者もあります。

それから又戰爭に因つて總ての交際上や作法上の儀式だとか、或は娛樂だとか云ふやうな事は全然廢されて普通なら夜會であるとか舞蹈會であるとか云ふやうな事は佛蘭西は殊に盛んな方であつたのですが、今日では殆んど舞蹈や樂器であるとか云ふやうな物は何處に在るか判らぬと云ふ位であります、或一部の婦人などは仕事が無いから行ると言つて居る者もありますが、又斯んな戰爭で働いて居る皆に對して自分ばかり平氣で遊んで居るのは間違つて居ると言つて、困まらない人でも大部分の方々が病院などに於て非常に熱心に働いて居られるのであつて、或婦人なぞは自分は此年になるまで髮を切らしたことがなかつたのですが、今度の戰爭の爲めに冥途の

お土産に良い事を經驗したと言はれて居る位に、病院に行つて煙を切らしてまで働いて居られるのでありまして、兎に角殆んど想像の出來ないやうな事をして自分で働いて居られるのであります。それは私共も感心して居りましたのですが、六十歳ばかりの伯爵夫人がありまして、其方なぞは看護婦の學校を造つて居られるのですが、此夫人なぞは戰爭前は自動車を三臺も有つて居られたさうですが、戰爭が始まると、それを皆陸軍省に寄附して、自分は電車に乘つて始終働かれて居るので、或日の夕方に電車の來るのを待つて居つたが、疲れて遂に寢込んで仕舞つたので呼起されたと云ふやうな話がありましたが、さう云ふ風に自分の年を取つて居られるのにも拘はらず、出來るだけの事は自ら進んで行ると云ふ精神を有つて居るので、疲かれるのも構はず終日働いて居られると云ふやうな方なぞもありました、其他應援的の仕事は、例へば物品の寄贈の如きも、あまり寄贈者が澤山あつて殆んど始末に困まつて仕舞うと云ふやうな物もある位に隨分豐富に寄贈されて居る。それから又澤山な廢兵がありまして、中に腕を取られたり或は脚を失つたりして居ると云ふやうな者も澤山あるので、さう云ふ風な者には特別の設備が出來て居つて、何うせ廢兵になつて何にも出來ないと云ふやうな者には創が癒らぬうちは一つの病院に容れて、其病院の方で裁縫を手傳はせたり「タイプラーター」を習はせたり、外國語を敎へたりして、一方に傷が癒つて、一方に仕事を覺えると、今度は街に出て商賣を行る、と云ふ風にして、一方に於て職業を覺え、一方に於て看護を受け、卒業すると商賣を爲るさうして、自分の殖産の爲めに働かせると云ふ方法を講じ、又義足とか義手を作るに金を遣るとか、特別に周旋をして行るとか云ふ風にして居る。又失明者には「マサージ」を敎ゆるとか或はいろいろな事を敎へて居つて、さう云ふ事は啻に一つの團體ばかりでなく、個人々々でも行つて居るやうであります。一個人で三四人位の者を引受けて世話

をされて居る者もあります。

それから負傷して入院して居る患者の眼先の變つて居る仕事は、手先で行る業でありまして、藁でお盆を作るとか、南京玉や毛絲なぞでいろ／＼な物を編むとか云ふやうに手細工品を作り、それを一定の金で買つて大きな店なぞに並べてさうして、世間の同情者や、外國人なぞに買つて貰らうのでありますが、さう云ふ風にして一方に於ては看護人を附けて世話をし、又一方に於ては患者を無駄に遊ばさないで多少なり仕事を行らせると同時に無聊に苦しむと云ふやうな事を避けることが出來るのである。此頃では其處で拵へた物が大層能く賣れ、數が非常に多く買入れらるゝと云ふやうな盛況で、六千圓も七千圓も外國に賣れるので段々いろ／＼な種類の催しも殖えて來たやうであります。

それから又演藝會がなか／＼盛んで目下佛蘭西では國設の劇場は全く閉ぢられて居るが、其他の劇場は今尚ほ盛に行つて居りますので、芝居や音樂なぞを爲す者が、其隙々に斯う云ふ病院などに來て行る。役者や音樂家が何か一つの團體を作つて方々の病院で演藝會を開いてやるので、小さい病院なぞは大きな場所を借りて、其處に方々の病院から輕い病人を集めて演藝會を行る。勿論演藝の題にしても主として尚武的の氣風を奬勵し、敵愾心を起さすやうな芝居ばかり行つて、病人を慰め傍ら人の心を鼓立たすやうになつて居ります。私なぞの病院でも十六回ばかりありましたが、或時は一週間に二度位演藝會がありました。で斯う云ふ事のある日は前から定まつて居るのですから皆其日の來るのを待つて居つて、其日にはいろ／＼な用意をして病室を明けてやるとか、適宜に働ける患者はいろ／＼な物を持つて來て場所を作つたり、又臥て居るやうな重い患者はベツトと共に他の病室に移してさうして樂ませる。それに就て一つの話がありますが、演藝會で狂氣‐精神病患者が癒つたのがありました。それは二十歳ばかりの兵隊でありますが、此人が大砲で怪我をして、其

處が化膿して非常に熱があつて苦みましたが、其處に又丹毒が起つて來たので、其患者を外に移したところが非常に心配し始めて、もう自分は癒らないものと思つて、始終死ぬ〳〵と口癖のやうに言つて、夜中に大きな聲を立てゝ泣いたりして、他の者も見て居られない位でありましたが、幸ひ創も良くなつて參りましてそれと同時に精神の方も多少良くはなつたけれども、それでも未だ人を騷がして、他の者が付いて居らなければ危ぶなくつて打棄つて置けぬと云ふやうな狀態でありましたが、演藝會があるから一つ聞かして見たら何うかと云ふことで「ベット」に臥かして連れて來て置きましたところが、兎に角默つて聞いて居るので大變宜さゝうである。多少妙な事なぞは口走りましたが、兎に角精神が治まつてとう〳〵癒つて仕舞つたのであります。元來向の人は殊に音樂とか演藝とか云ふやうなものが好きであるから、斯う云ふ會なぞを行つて患者を慰めてやると云ふことを致して居ります。

前にも申上げた通り、いろ〳〵の救護は主として女の方が行つて居られるのであります。で私共は向に參るまでは此佛蘭西と云ふ國は華美な、非常に贅澤な國であると云ふやうな風に考へて居つたのでありますが、實際行つて見ると他で聞いたやうに甚くなつては居らないのであります。成程佛蘭西は服裝とか帽子とか云ふやうな物は何處となく華やかではありますが、彼方では流行を造り出す商賣がある。洋服だの帽子だのゝ流行を作る商賣があるので、流行を造るだけの商賣になつて居ります。さう云ふ風でありますから成るべく人の眼に著くやうな、人の好みさうな物を作つて流行らせて、さうして金を儲けると云ふことに苦心して居る。それが外國人――英國人とか米國人とか云ふやうな金持の人が態々衣服や帽子の流行を買ひに來る。さう云ふ風にして佛蘭西の人は金を他國の人から集める爲めに看板を揭げて斯う云ふ商賣を行つて、始終金を集める事に苦心して居るのであります。それで却て佛蘭西の人は贅

澤ではなくつて、寧ろ非常に地味な人が澤山あるのでありまして、貴婦人方でもそんなに贅澤な方は少ないのであります。さうして貯蓄心に富んで、下女もあまり使はぬと云ふ風でありますから、傍で見たやうに贅澤ではないので、是等は日本人なぞも眞似なければならぬ點であらうと思ひます。男子の方もさうお華奢ではない、兵隊の仲間で申しましても、隨分日本で云ふ田舍者で、今まで巴里の都にさへ來たことのある者は少いと云ふ風で、中には便所の使方も知らないと云ふやうな者もあり、又本も讀めない、數字も書けないと云うやうな者さへもあるので入營してから小學校の本なぞを教はつて居るやうな者もあります。稀れには金廻りの宜いお華奢な人もあるが、兎に角さう云ふ人は少くつて軍人は實際眞面目な考を持て居ります。是は一つの例でありますが、二月の初でありましたが、佛蘭西の新聞に「佛蘭西の勇敢なる飛行將校」或は「佛蘭西の勇敢なる小鳥」と云ふやうな記事があつた、其人でありますが、

其人が獨逸の飛行機を七度も墜したことが書いてありました恰度其次の日に病院に貴夫人で看護婦長をして居られる方がありまして、其方が新聞に出た飛行家が今度來たら是非紹介してやると言はれました、すると一日置いて病院に同じ名前の將校が見えましたが、其人はギーヌメと云ふ少尉で、此人が盛んに新聞に書立てられた有名な少尉でありました。さあ此人が入院して來たと云ふので大分な評判になりました。入院してから聞いて見ると此人は二十一歳で佛蘭西の豪家の一人息子なさうで、其の兩親は一度日本にも來たことのある人ださうですが、戰爭の初に徵兵檢査を受けましたところが體が惡くつて合格しなかつたので、自分は飛行家にならうと思て飛行機の稽古をして可なり上手になつたので始て航空隊の兵士として採用されるやうになり、戰場に出掛けると間もなく獨逸の飛行機を落し、二度も三度も落して五番目に少尉にされたのでありました。段段聞いて見ると丁度一昨日、其日に佛蘭西に飛行機

を取換へに來たところが、巴里の方に來たら友達が遊んで行けと云ふから其翌日飛行機で巴里を立つて、兩親に會つて、又飛行機でヴエルダンの方を通つて行かうと思つたら、向から獨逸の飛行機がやつて來たので、三千五百「メートル」の空中で戰爭を始めて墜さうと思つて居ると、俄に第二の飛行機が自分の頭の上に見えたので此方から一發やつたと思つたら、第二の飛行機から發射された彈丸の爲に腕と顏に傷を受けたので、わざと二三百「メートル」ばかり急轉落下して、敵の目を眩まし、それから片手で機首を廻して無事味方の陣地に歸つたとの話であります。昔話や講談にある武士なら鐵砲に打當れ、死んだ眞似をして倒れて居る所に向から又惡者が來たので起上つてそれを打取つたと云ふ段である。其昔話を今飛行機で行つたのであります。そんな風に非常に勇敢に働いたと云ふ事が夕方の新聞に出ました。其人に多くの見舞がございましたが、日本で言へば高等學校の生徒とか中學の生徒位の年輩の人でありましたから、あまり多くの人に會ふのを煩さがつて朝早くから飛出して夕方に歸つて來て自分の腕の傷を診て貰ふと云ふやうな風でありましたが、其見舞に來る人の中には帽子を買つて來る者もあるし、「ハンケチ」を持つて來るとか、名も知れぬ人が花を持つて來たりして、何か書いて呉れろとか言つて却て煩さうでありましたが、さう云ふ風であるから一日も早く退院さして呉れろと云ふやうな譯で、退院させたのでありますが、其後間もなく戰場に行つた見えて私が歸る頃の新聞には十一番目の飛行機を墜したと云ふ事が載つて居つたのですが、立つ時分には十四番目の飛行機を落したと云ふことでありました。此方に歸つてから二十番目二十一番目と落して、それからずん〱上つて來て居りますが、日本なぞであつて見ると飛行機の數が僅か三十一臺位しかないのですから、そんなに墜されたら無くなつて仕舞ひますが、さう云ふ風に非常に働いた人で、其人に聞いて見ると、あんなに面白い仕事はない、

誰が廢めろと言つても自分は止められないと言つて居る。勿論一寸獵で鳥を落してさへ面白いものですから、況して大きな者を落すのは面白いのでありませう。さう云ふ風に却〻勇敢な人が佛蘭西の飛行家には少くないのであります。

其外飛行機の話を聞いて見ると面白い事を盛んに行つて居る。向に行て見ると、上流の人が進んで兵役に從事して居られるので、大學の醫者であるとか或は新聞記者であるとか、さう云ふやうな者が進んで普通の兵隊になつて働いて居ると云ふのも少くないのであります。詰り上流の人が兵役に從事して眞面目に行つて居る。中には日本の田舎の老爺と云ふたやうな年脹の者も澤山あるのであります。それから大統領に對する尊敬とか或はそれに盡すと云ふやうな考は殆んど無いので、日本の總理大臣よりも下位に考て居るのであるが、少くとも自分の國を興し、自分の國益の爲めには、その愛國心は非常なもので、醫者のいろ〳〵の研究會などに於ても非常にその熱心が顯はれて居るのであります。

それから此病院の事を一寸お話致さうと思ひますが、後で寫眞をお廻し致します——で巴里に凱旋道路があつて、凱旋門の直ぐ側の所に「アストリヤホテル」と云ふ非常に大きな「ホテル」がありますが、此「ホテル」は獨逸人が經營して居つたものであります。戰爭の前に獨逸のカイゼルが微行して來られたことがあるさうですが、戰爭の始まつた當時、「ホテル」の支配人が無線電信で獨逸國内に内通して居つたさうです。それで巴里の人々は此の建物に對して非常に反感を有つて居つて、「ホテル」は巴里の政府に取上げられたやうな形になつて、今は英國の赤十字病院から送つて來る患者を其處に收容して居りまして私共はその後を引繼いで、其處で働いて居つたのであります。斯う云ふ事になりましたので寄宿舍の者なぞが歌を謠つて居つた、其歌の意味は、彼の獨逸の爲めに汚されて居つた「アストリヤホテル」が日本の花に依つて淸められた、と云ふやうな譯で可

なりな信用を得て居つたのであります。さう云ふ風でありますから引揚げる時なぞでも、始め私共日本を出立する時は五ヶ月の豫定で參つたので、大正四年の六月に引上ぐべき筈でありましたが、戰爭がなかなか濟みさうもないので、なほ六ヶ月延期と云ふ事になり、大正五年一月に引上げになる筈でありました、併しその時は佛國政府からの注文と日本大使館の意見により更らに六月まで延ばされたのであります。而していよいよその引上の六月近くになつたので、その旨を陸軍省に申出でましたら、當局ではまだそんな頃に引上げを實行するのではなからうと思つて居たので、當方よりの申出でに對して甚だ意外に思ふた樣でありました。而して何故今頃引上げると云ふのか何か氣に食はぬ事があるか、何か當局に惡るい事があつたら、どんな條件でも聞くから申出して呉れ、若し又豫算などの都合などで歸へると云ふなら、陸軍省の方で出すから居て呉れと、種々引き止められたのでありました、又個人として色々引き止めて呉れる人がありまして、若し金が無いと云ふなら、自分一人でも喜んで、その金を支辨しやうと云ふ人もあつたのであります。實際何故に今頃日本赤十字社が引上げて行くかと聞かれた度毎に、私共はその返事に困つたのであります。然るに之れより先き日本の赤十字本社から我々の去就に關しては、本社と大使館の意向によりて定めるのであるから、直接自分等の引上げに就きては口を出すなとの内命でありましたから、我々は色々の問に對しては、唯日本赤十字本社の命令によりて動くのみであると答へました、そうすると又た、日本の赤十字社なるものは隨分ひどい……又た多くの人々は日本の赤十字社をば、全く日本國の代表的のものと見做して居りますので、日本と云ふ國は隨分ひどい、日本は聯合軍などゝ云ふて居りながら、唯金ばかり儲けて居て軍隊も出さず僅かに赤十字の救護班を派遣したのはよいが、それも中途にして引上げると云ふのは、あまりに蟲が良過ぎると少なからず不平の言

を發して居つた人もあつたのであります、併し何を云ふにも私共は赤十字本社の命令に依るより仕方がないので、殘念ながら引上げる事になつたのであります。特に引上げに際しては患者が甚だ可哀相でありました、私共の引上げはなるべく秘密にして居つたのでありましたが、誰云ふとなく患者が聞き付け何故引上げるのか、今引上げられたら自分等は死んで仕舞ふであらう、自分も一緒に日本に連れて行つて呉れなどと連りに訴ふるものもあつたのでありました、丁度その頃ウエルダンの戰は少し下火になつたが、ソンムの大會戰が始まり、戰傷者も尠なからず。新入院も毎日のやうにあつたのでありましたが、いよ〳〵七月近くになつたので、新入院を斷わり、輕傷者を出來るだけ退院せしめ七月一日病院の色々の器械及び事務と共に、殘つて居る患者三十七名を後繼の病院に引渡したのであります、此の後繼の病院と云ふのは英國のある金滿家が金を出して、英國と佛蘭西の醫者及び看護婦が仕事をなす事になつたのであります、私共は引渡後十日間、なほその「アストリヤ、ホテル」に居つたのでありますが、大使館からの御注意で、あまり病室には行かぬ方がよからうと云ふので患者の訪問を遠慮して居りましたが、外出の往復に患者に出逢ふと、患者は喜ばしげに握手をして、後繼病院の不平を色々と云ひ告げ、何故みんなが訪ねて呉れぬかと恨みを云ふのであります、此の時は重症者ばかりで歩行の出來るものは少なかつたが、いつも食事の鐘が鳴ると歩ける患者は杖や人につかまりながら、階段の處に來て、色々と挨拶をなし、「ベット」に居る誰れ彼れがよろしく傳言したとか何とか云ふて、せめてもの慰めにして居るのであります、それからいよ〳〵出立の日となつたので各病室に御別れに參りましたが、どの患者も〳〵も涙を流し、別辭を述べるのもあれば、涙に咽せてろくに言葉も發し兼ねるやうなものもあり。私共も思はず涙を流し、涙を拭き〳〵病室を廻つたのであります、「ステーション」にも澤山の見送

がおり、特に退院した患者が手を吊り或は杖に倚りて見送りに參ゐりまして、又た新たに別離の涙を流したので、汽車が巴里を去つても、暫らくは其等の光景を思ひ浮べ、胸せまるを感じたのであります、實際人情と云ふものは何處に行つても變らぬもので

あります。

それから又最も感じた話は、昨年の二月半の事でありますが、巴里に有名な「ソルボン」と云ふ大學がありまして、其大講堂は約一萬人以上の人を容れられるだけの大きな建物で、其處にセルビヤの後援會があつたのであります。セルビヤは御存知の通りとうとう潰れて仕舞つたのですが、此セルビヤの追悼講演會と云ふやうな名前で、聯合軍の各國人が發起者となつて非常に大きな會がありましたので、私も其處に行つて見ましたが、向に居る人の顏も分らぬ位な廣い講堂で、其處にぎつしり人が集めて多數の人の演說がありました。演說の初めに佛蘭西の國歌が謡はれ、それからいろ〳〵の演說がありましたが、其演說者は日本側からは林さん、前の公使と赤十字社の副長鹽田博士とが演說を行つて呉れましたが、殊に佛蘭西の事であるから心配して居つたのですが、幸ひ上手く行つて呉れましたので私共までも大變肩身が廣いやうな心持がしたのであります。それから段々演說の回數が續きまして白耳義の前の總理大臣が演說をされたのでありますが、此人は體格も非常に立派で、演說も實に立派なものでありまして、聽衆は殆んど一句毎に喝采をすると云ふ有樣で、其演說が終ると滿場總立となつて喝采をしたのでありますが、恰度其時演壇の下の所にセルビヤの總理大臣が其演說を聞いて居られまして其演說が終はると二人とも抱き合つて感慨の涙に咽んで居られたのでありますが、それを見た聽衆は實に何とも言へない感がしたのであります。終りに白耳義の國歌を音樂隊が行つて閉會したのでありますが、其時の光景は悲壯と言つて宜いか、慘絕と言つて宜いか殆んど形容の辭もない位で、實際國が亡びると云ふ事は最も

悲慘な事は言うまでもないが、此際特に痛切に感じたのである。實に一國が亡びると云ふ事は哀れなものであるが、併しながら又同時に斯う云ふ事があるから國が大切である。轉ばぬ前の杖で、平常に用意すると云ふ事が肝要である。自分の國は幸にさう云ふ事もないからと油断をして居ると、いざ戰となつて地駄んだ蹈んでも迚ても及も付かない。で斯う云ふ光景を見ると、自分等も安心して居つたら、何時かは斯う云ふ事になりはすまいかと痛切に感じたのであります。翻つて考へて見ると此日本ほど好運の國はなかつたので、例へば日清日露の戰爭にしましても、實際考へて見ると幸に勝つて居りますが、今までの戰爭の當時は兵隊の準備も今日程でなくても勝つたのではありますが、支那や何かを對手にして勝つても少しも日本が勝つたと云ふことの自慢にもならぬので、今後に於てはどうであらうかと考へられるのである。今度の戰爭で見ると却々いろ〳〵の事があつて、容易に戰爭が治まらぬのである。日本では肉彈的の軍人があると言つても、何處にも斯う云ふ者はあるから、なか〳〵自慢にはなりませぬ。アントワープの有名な戰に二萬ばかりの兵隊が肉彈的に行つて突進して一人も殘らず死んだと云ふやうな事もありますし、ウエルダンの要塞に獨逸の軍が攻めて來た時の如きも、幾ら殺しても向からやつて來る、全く肉彈的の攻擊であつたと云ふやうな事であります。若斯う云ふ精神をもつて居る上に、機械の力、人數の力も劣つて居る日本は餘程の覺悟がなければならぬのであつて、況んや使へないやうな飛行機なぞが幾らあつても、迚ても日本では及びも付かぬのであります。戰爭が始まつて以來餘程の發達は致して居りますが、向では此飛行機の練習が非常に盛んでありまして、夕方などには飛行機練習場の空は鳥が森に歸つて來るやうに澤山群つて來るのであります。斯う云ふ光景を見ると何とも言へない感が致します。大砲にしても、小銃にしても、又一寸した爆裂彈の仕懸にしても非常にいろ〳〵なものが、

實際に於て試驗されて居るのであります。總てが斯う云ふ有樣であるから、今後は當に兵力ばかりでなく能力、智識の點に於ても、いろ〳〵の科學の研究からして掛らぬければ、日本は强いと言つても安心は出來ない。飛行機は今は何處にでもある、風があるから飛ばれないと云ふやうな事では迚ても間に合はぬのであります。それから又醫學の方面に於ても日本は比較的發達はして居りますが、それとても却却安心は出來ない、眞に獨逸と云ふ國は何に懸けても恐いのであります。又商業に就ても問題となつて居りますが、日本の商人は自分だけであつて、自分の國ある事を知らないので、外國では日本の商人は日本人ぢやあるまいなど〻評されて居る位で、店なぞはなか〳〵盛んに行つては居りますが信用が無いのであります。

斯う云ふやうに何の方面から考へても皆劣つて居るのであります。戰爭と云ふものは、今後はさう世界にないと言つては居りますが、平和を基として居る社會であつても、いざ戰爭となつて來ると、社會とは全く離れて仕舞うのでありますから、戰後に於ても唯日本は强いと威張つてばかり居つたのでは取返しが付かぬ。そんな風では誇りセルビヤや白耳義のやうな哀れな狀態に陥らなければならぬのであるから、吾々共は是非總ての人々が常に覺悟して掛らなければならぬと云ふ事を痛切に感じたのであります。

叢談

日本服

高峯博

衞生上からの見地から觀れば、日本服は甚だ適當なもので恐らく世界の文明人の衣服中、其の衞生的に

して且、寛闊なる點に於ては第一位であるかも知れませぬ。先日、長濱の檢疫所を參觀致しました際、其の係員から聞いた話でありますが、外國からの船舶が、かう云ふ處へ入港して、其の必要上、乘組員をば幾日間か當檢疫所で停留せしめる場合に、彼等外國人、殊に西洋人は殆、皆日本服を要求して、たとひ彼等の爲に別に其の著服を準備してありますが、日本流の方が良いらしいとの事でした。

これは其の半分は好奇心が手傳つて、さうさせるには違ひありませぬが、また必ずや日本服が著心地よいからでありませう。其の證據に、如何に日本人で其の日本服の缺點を喋々する人も、例へば夏の夕方、一杯、行水を使うて其の湯上りのからだに、ゆかたを奬められても、いやこれには缺點があるとて、洋服を著用に及ぶものは先づ一人として無いだらうと思ふ。又、就蓐の際も、きつと固有の日本服を求めるに違ひない。これは、習慣や風俗に由るのではなくて、かういふ場合に日本服の適當してゐる特長に因るのであります。即ち身體を安樂ならしめる爲、隨つて休息時や、病者にとつては日本流の衣服は第一等であります。殊に醫者の方から觀ても、之を診察する場合に、若し洋服であるならば上衣の「ボタン」をはづしたり、下の「ズボン」を脫いだり、まことに面倒で、時間もかゝれば、診るべき所も充分に檢べる事が出來ませぬ。病者になつた時のみならず、健康者にとつては、尙更日本服ほど好適のものはない。即ち其の特長は風通しが良いから皮膚から發散する瓦斯、其の他の分泌物を長く一所に停滯せしめずして、皮膚の爲、又一般に身體の物に非常に宜しく、そして外氣と其の溫度が略一致して直接に皮膚にも觸れることになつて、皮膚の抵抗力を增大せしむる效果があります。かういふ推奬すべき美點があるのですから決して日本服は捨てる事は出來ませぬ。けれども、人間が衞生のみの爲に生きて居るのでなく、又健康者には愉快なる可く、病者には安樂なるべき事のみを以て其の目的は果せりとなすべき

ではありませぬ。言ひ換へれば、「人間は食べる爲に生きるに非ずして、生きる爲に食べる」との古來の格言と同一主意に歸著する。卽ち働いて後にこそ愉快をも得つべく、更に生き延びて働かん爲にこそ、病者を安樂にする必要があるので、執務、勞働といふ觀念と離れては如何に美しくして、如何に衞生的な衣服も人生には殆ど何等の價値もないものとならねばならぬ。

而して、此の見地からすれば、其の衣服が第一に社會に於て業を執るに適當して、便利なること、第二に其の居ると出づるとに方りて其の服裝に大懸隔ある爲の不便を寡からしむると、第三に身體を多忙時中に働かせても、其の服裝に不體裁を生ぜしめざること、第四に身邊必要の書類や物品を成る可く多く自身と共に携帶し得る爲の衣囊の成るべく多からんこと。第五に執務等によりて生ずる損傷を簡易に修繕し得べきこと、第六に其の調製は經濟的になし得たき事、第七に身心に愉快安樂にして衞生的なること、——寡くとも以上七要件を備へねば善良な衣服と申すことは出來ませぬ。さて日本服は以上の要求中、何程を滿足せしめ又、何程の價値がありませうか。私共男子の始終不便に感じて、殊に旅行時にさう思うのは、第一に「ポケット」の無い事である。第二にヒラ／＼と袖が邪魔になることである。これ丈の布帛を使うて、どこかもつと便利な處へ、三つ四つの衣囊でも造れぬものかと思ふ。婦人の衣服は愈愈袖を長うして、あれで調子を取るのだとか釣合をどうとかするのだとか聞きましたが、あんな風に袖で衝立や屛風の樣なものを兩側へくつつけて、身體の不釣合の處を掩蔽して居るからいつまでたつても、ほんとの良き體格は出來ない。それから、よく人は日本服は簡易であると特言しますが、成程、其の通りの點があつても始終然とは思へませぬ。殊に婦人の外出となると大したものであります。寢衣姿に細帶一つで、平氣で表へ飛び出して、ガヤ／＼と大聲で喋舌立て得る下級民の山の神は別論でありま

すが、其の他の日本女子の外出が其、手間取れて隨つて臆劫に成るのは、殆ど全く其の衣服からの影響ではありますまいか。特別の場合はいざ知らず、普通に二三十分乃至二三時間の外出に對しては、もつと輕便にもつと簡單に出來ぬものでせうか。こゝに日本服の大缺點があると思ひます。

又一旦、外へ出てからも、日本の女は一寸も落付いて居らぬ。腰を屈め、小股でチョコ〳〵チョコ〳〵と行く。私は常に之を見乍ら、「喪家の狗の如し」とも思ひ、「屠所に牽かるゝ羊の如し」とも考へ「彼等日本女子は皆罪人なるや」との疑問も起して見た。どの點からしても愉快な晴々した姿勢を見得た事はない。遠く歩けば裾がきれる心配、風がふけば衣裝の亂れる恥しさ、自働車が馳け拔けると、とばしりを引つ掛けられる恐ろしさ、成る程、これでは心中安穩に出來ぬ筈だと思ふ。「安」といふ字は宀に从ふに女で、つまり女子家中にある時は安かなりとの意であるさうです。東洋女の引込主義は四千年前に出來た文字にチャンと表れて居りまして、此の安字主義が漸く近頃所謂新しい人々が擯らなく思ひ出し、又西洋では今度の戰亂の結果、いやが應でも事實上に女子も戸外生活が重要なる社會現象の一つとなつてしまひました。

さて此の歐洲大戰爭の影響は我が國に對しても甚大なるものでありますが、日本の女子服と歐洲戰爭とは如何に、まだ此の問題について述べられた事は承りませぬがどうか、諸姉の一考を煩したい。最近、得ました外國通信中、彼等軍國の女子が如何に活動して居るかを窺うを得るのであります。即ち英國下院議員にして、同時に樞要の位置を以て軍器局とも密接の關係を有する、エフ、ケッロウイ — Kellaway 氏は最近、一展覽會を開催して女子の勞動振を紹介致しました。之に據りますと、各種の工場中今や殆ど女子の姿を見ない所はなく、「タンク」、彈藥、爆彈、避丸甲、空中魚雷の製造等あらゆる勞動に從事してゐます。殊に、熟練せる某技師は其の

二年間の經驗によつて、女子のみを専用して優に一戰鬪艦を製造し得るとの確信を發表して居ります。卽ち最初、龍骨の組立てから、其の附屬品備付に至る迄、徹頭徹尾女子のみで用を辨じ得るといふのであります。そして、戰亂第一年の夏期には彈藥製造所に於ける婦人勞働者の數が二十二萬一千人でありましたが、去る一月の調べでは、六十九萬一千人になつて居ります。

又今や婦人が出入する工場の數は實に英國内で四百七十一ヶ所、其の中には婦人の鍛冶職もあり、又器械工夫、化學品製造人も居るのであります。事情已むを得ぬとは言へ實に盛んなものではありませぬか。

諸姉よ、我が國に於ても、いつ如何なる事情の爲に女子が斯くの如き勞働を取らねばならぬ情態となるかもしれませぬ。而して諸姉の體力はよく其の業に堪え得るや、諸姉の知識はよく其の職を理解し得るや、而してまた諸姉と最も親密の關係ある其の衣服が、此の際果して如何の用をなし得るや、問題は澤山ありますが、私は此處に特に此の最後の點を擧示して、衛生的にして且實用的の模範日本服の御工夫を希望し、就中、御自身の婦人服改良に於て、從來の入澤博士夫人の唱道せらるゝ主義をばもつと廣く流布し又熱心に實行するに至らんことを切望致します。

肺病の不治といふ事に就て

石原巽

最近の調査によると日本もいつの間にか世界で第一の結核國といふ事になり、毎五分間に一人づゝの同胞が此結核の爲めに死亡し、首府の東京では一時間に一人づゝ殪るゝ割合になる有樣、此儘で行つたなら實にどんな事になるのか末恐ろしき事といふべき

であるが、結核は他の急性の傳染病たる「コレラ」や「ペスト」と違つて其經過が至つて緩慢なのと其發病の初めが一向とりとめた容態がないので、世間の人も至つて平氣で居るのである、又少し氣を付ける人だと唯だ無暗に恐怖するといふ様な有様、これは此病氣を豫防したり、又は癒したりする上に非常な障碍になる事で、其爲め癒るべきものも益々深入りして、所謂不治の狀態となり、世間でも全く不治の病であると信ずるに至り或は不知不識の間に非常に多數の同胞が此病原の爲めに失はるゝといふ様な事になるので之に對してはどうしても此病氣に對する智識を平常より心掛けに修養して居る事が一番大切な事である。例ば此病氣は誠に恐しい病氣には相違ない、又た極めて傳染し易い病氣には違ひないが、肺病といふてもどれもこれも傳染するものでないので、肺病の人の咳の中には結核菌が居つて夫れが喀き出された時には夫れは確かに危險である。又た傳染もするが、肺病といふても咳嗽の出るのも出ないのもあるので、所謂閉鎖性といふて咳嗽は出ても結核菌の喀出されないものもあるのであるから、無暗に肺病であるからといふて驚怖するといふのも間違であると同時に、咳嗽や痰が出ないから肺病でないといふて安心はして居られないのである。故に若し次の様な容態がある場合は決して油斷はならないのである。卽ち第一には體がだるい事がある。第二には物に根氣がなくなる。第三には兎角疲れ易い。第四には少し動いても動悸がする。第五には頭が重いとか、頭痛がする。第六には少し仕事をすると肩が張る。第七は動くと體が火照る様な氣持がする。第八は食氣が何となく進まない様になる。第九には月經に異常があるとか。第十には體重が漸々減ずるといふ様な事で、此等の容態は肺病の最も大切な容態で、咳嗽が出るとか、痰が出るとか、熱があるとかいふのは、最早や餘程末なのである。以上の様な容態の内に充分適當な手當法をするときは確かに肺病は治癒するものであるので、肺病が不治の病である

などいふに至つたのは、何れも治療の適當の時期即ち肺病の初めのうちに手當をせず、所謂手後れになつた爲めなのでどんな病氣でも適當なる時期に手當をしなければ皆不治であるのは明なる事である　此見易い理屈が一般にはなか／＼理解され難いので、此平凡な理屈が徹底さへすれば肺病の豫防と治療とは容易なものであると信ずる　實際に於て肺病が不治の病であるとして世の中の人が恐怖するのは、極めて薄弱な根柢に過ぎないので、以上の極平易な事柄を玩味して、少しでも肺病の疑でもある時には、早速夫れに對する手當に掛るといふ樣にすれば、容易に治癒もし、且つ國民病ともいふべき肺病も忽ちに撲滅する事が出來るのであるから、爰は大に覺醒すべき事柄であると信ずるのである。

人間の腸

莊司秋次郎

夏の日長にまかせて今日は長い／＼御話を申上げようと存じます。御退屈の段は前以て御詫を致して置きます。それで、これは詰らぬと先見の明のおありになる方は、御遠慮なく頁を御省きになるやうに願つて置きますが、然し多少腹綿のある御方は、是非自分の腹綿は何の位立派なものであるか御承知あり度いものと存じます。

腸の名稱

腸と云ふのは漢名で、日本名は「ハラワタ」であります。即ち腹の内に蟠かまつて居ると云ふ義でありませう。併し又腹綿の意味であるとも申します。且つこれは主として大腸と云ふ部分を指して居るらしいので、腸の總名は「ヒヤクヒロ」と申します。「ヒヤクヒロ」は百尋で、長い事の形容から來た名であることは疑もないことであります。

腸の長さと區分

腸は胃袋の出口、即ち幽門と云ふ部分から始まつて腹腔をぐる／＼紆廻り、大凡腹腔の三分の二を充たして終に肛門に終る所の長い管でありまして、その長さは人に依て多少の相異はありますが、先づ平均七「メートル」二丈四五尺も御坐います、百尋はないが身體の割合には頗る長いものであります。之を大きく區別して小腸と大腸とに致します　小腸は胃に續いた上の方で、腸管全體を七「メートル」と致しますと、大凡その六「メートル」は小腸で、下の殘り一「メートル」程が大腸になつて居ります。

更に又小腸を區別して、十二指腸、空腸及び廻腸と致します。その十二指腸と云ふのは名の如く指を十二本横に並べた程の長さがある、胃から始まつて大凡一尺位の部分であります。その下が空腸、廻腸となりますが、これは解剖上でもその境界は餘り明確して居りません。廻腸はぐる／＼廻つて右の腰骨の邊で終りまして、それから急に太い大腸に移るのですが、直ぐ大腸の端には續かない、それよりも二三寸上の方で所謂廻盲瓣と云ふ處で續いて居る。此處から下の方の盲囊に終つて居る大腸の始の部分が即ち盲腸と稱せられる部分で、その先端の處から細長い指の樣なものが出て居る、蟲樣突起と云ふのは、此のことであります。それから上の方に昇つて行く部分を上行結腸と云ひ、次に右から左に横に行く部分を横行結腸と云ひ、それより下に降る部分を下行結腸と云ひ、左の腰骨の邊でS狀部と云ふて羅馬字のSの字形に曲つて、それより直腸に移つて肛門に終る、これが腸の大體の道筋であります。

腸の運動

次に腸は如何なる働をするかと申しますと、先づ第一に運動をする。その運動は二通りあつて、一つは振子運動と云ふて腸管が横に搖れる、これは一分間に十回位づゝ搖れまして、腸の内の物を混和るのであります、他の一は蠕動運動と申しまして、これは腸の一部分が收縮しその下の部分が弛緩する運動で

一寸芋蟲が動く時の様な有様であります。腸はこの運動に依て內容を漸次上から下の方へ送るのであります。

消化と吸收

消化作用は、既に口の中から始まつて、胃に於て一部分消化され、多少吸收されますが、併しそれはほんの一部分の物だけで、寧ろ胃は、腸に至つてよく消化され吸收されるやうに食物を調料する處と見て宜しい位のもので、眞に身體の榮養を維持するだけの榮養物を消化し、吸收するのは全く腸の働である。殊に小腸の機能であります。大腸も全く消化吸收の働が無い譯ではありませんが、この部分に至つては榮養物と云はんよりは寧ろ糞便を一時溜めて外に排泄するのが主要の役目であります、

そこで小腸の中で如何にして食物が消化され、吸收されるかと云ふことになりますと、これが消化生理で、生理學の中でも最も複雜な困難な研究科目でありまして、古今東西幾多の學者が熱心に研究を續けて居るにも拘らず、今日に於ても尙ほ渾沌として分からぬ點が非常に多い、從つて病理の方に至ても不確な點が少なくないので、治療法の上に於ても種々學者の說に相異を生じて來て、相變らず樣々の迷信や山師者の乘ずる隙を存して居る譯であります。

それで今日の醫學上に於ては消化と云ふ事は通常世人の信じて居る程に明瞭にはなつて居らぬのであります。然し又迷信に陷つたり、山師者に言ひまくられる程に幼稚なものではない、大體の所は勿論極めて精確に研究が屆いて居りまして、之に由て立派に診斷もつき、治療の方針も立つて、美事に效を奏して居るのでありますから、決して非醫者などに翻弄されてはならぬのであります。

腸の病

大體以上の事だけでも御承知になつて居れば、腸の病氣に就ても略ぼお話をすることが出來ます。誠に面白くない、詰らぬ話のやうで、此處までお讀み被下る人でも恐らくは特殊の方であらうと存じます

が、併しこれだけの事でも知つて居れば、御飯の後で一寸横になつたからとて御飯粒が肋骨の間に這入つて行くとは考へない、大便が胸の處から一續きになることも考へない。のみならず養生法の上にも、又病氣の時でも、斯樣な何でもないやうな常識が直接間接に何の位役に立つか分かりません。今日では學校で以て一通りの解剖生理は教へる筈でありますが、それでも未だ西洋人程に一般にこれが常識化して居らぬやうである。今後は戰爭のみではない、工業でも商業でも、其他日常の生活に科學の智識を應用し、これを常識化する程度の如何に依て其國民の貧富強弱が著しく相異して來るのであります。我國では人間一切の事業の資本である身體の事に就ては、甚だ無頓著な人が多いやうに思はれる、衞生と云ふことが馬鹿にされて居る傾があるが、何れ斯くては濟まぬ時節が來るに違ひない、國民擧つて衞生に熱注せざるを得ぬやうに覺醒する時代が來るに相違ないと思ひます。

話が餘談にそれましたが、以上の簡單な腸の解剖生理を土臺にして、少しく腸の病氣の事を申述べて養生法の御參考に供し度いと思ひます。

十二指腸の病氣

十二指腸は既に御承知の通り腸の一番上の方、即ち始めの部分でありまして、上は胃の幽門に續き下は廻腸に移る。而して右の肋骨の下の邊で、馬の蹄鐵の缺けてる方を左に向けたやうな位置になつて居り、その彎曲して居る處に、肝臟で出來る彼の苦い黄色い膽汁を入れて居る膽囊があり、膵臟の頭の處か在ります。且つ膽汁を腸に入れる輸膽管、膵液を腸に入れる膵管も同じくこの十二指腸に口を開いて居るのであります。

此處に起る病氣で有名なものは十二指腸潰瘍、これは大抵何方も御聞及びの胃潰瘍と同樣、その粘膜に潰瘍が出來るものであります。これは急に右の肋骨の下の邊の部分でお腹に疼痛が起る、而してその疼痛は食後二時間乃至三時間も過ぎてから起り、右側

を下にして臥ると疼痛が強くなる、其部を壓しても疼痛がある、大便を檢査して見ると血が混じて居る。その潰瘍の場所に依ては黄疸を起し、或は破れて腹膜炎を起すことがあり、なか〳〵重大な病氣であります。又破れたりせずに治癒りましても、その潰瘍の痕が硬くなり、收縮みまして、其部分の腸管が狭くなり種々の故障を殘すことがある、加之ならず幾度も繰返して起る傾がありて、頗る性質の良くない病氣であります。

若しも十二指腸潰瘍と云ふ診斷がつき、或はその疑のあるやうな時には、醫師の治療を受くるは勿論の事でありませうが、兎も角も先づ以て極めて安靜に就褥して絶食することが必要である。それから幸に出血も止み、疼痛も輕くなつて、潰瘍が幾分治癒しかけたと思ふ頃になれば、消化し易い液狀の榮養物を攝り、それから半流動性の食物にし、徐々に通常の食物に復すると云ふのが治療上の原則であります。

次に十二指腸蟲病と云ふ名も普ねく人の知つて居る所で、これは一分位な絲の樣な白色の寄生蟲——血を吸へば紅くなる——であります。人の十二指腸に寄生して血液を吸ふのであります。その爲に貧血を來し、胃の邊が苦しいとか、痛いとか、胸がやけるとか云ふやうな胃腸の症狀があつて、動悸がし、運動すれば息が苦しく、段々皮膚が蒼白くなつて、後には浮腫が來ると云ふやうな種々の症狀を起します。我邦には非常に多い病氣でこれが爲に米國などでは日本移民は「トラホーム」と十二指腸蟲の有無を檢査した上でなければ上陸させることが出來ぬと云ふて甚く嫌はれた程で、實に國辱と申さなければなりません。故にこれも常識として人民一般にその豫防法を知つて居らなければならぬ事と思ひます。

十二指腸蟲は皮膚からも這入りますが、主としてその幼蟲を飲食物と共に口から嚥下むで、それが十二指腸に至つて成育して害をするのでありますから、その豫防法としては次の個條を守れば宜しいわけで

あります。

一、十二指腸蟲の卵や幼蟲の混ぜる疑のある水を飲まぬ事。

二、生の野菜及び果物を皮のまゝ食ぬ事。

三、不潔の手にて飲食せぬ事。

四、皮膚を清潔にする事。

腸加答兒

これが先づ一番多い腸の病氣で、腸加答兒と云へば十二指腸加答兒、廻腸加答兒、結腸加答兒、直腸加答兒と云ふやうに腸の始から終まで何處でも起りますが、一部分が惡くなれば、其他の部分にも多少故障が起ると云ふわけで、何れの部分に加答兒が起つても皆引括るめて腸加答兒と云ふ加之ならず胃加答兒を起すと同時に、或は引續て腸加答兒の起ることが多いのでさう云ふ場合には又胃腸加答兒と總稱されるのであります。

腸加答兒と云ふのは、一體腸が何んな風になるのかと申しますと、これは病理解剖上の事で、顯微鏡で標本を見るか、少くとも腸の内を見た事のない人には一寸想像し難いのですが、兎に角腸管の内面も口脣や頰の内側と同樣の粘膜で被はれて居ると考へなければなりません。その粘膜が加答兒を起しました時には、赤く腫れまして、絨毛とか淋巴腺と云ふやうなものも腫脹て、白い處や赤い處が出來、斑點狀になつた處が特に潰瘍となり、出血したり、更にその潰瘍が深く進むこともあるのであります。

斯樣な事も醫學をやる者だけが知つて居れば澤山だと思はれますが、扠て斯樣な事を常識として大體承知して置ていたゞかなければ、如何に醫者が治療上必要な養生法を申上げても、效が無い、實行され難い。口脣や頰の粘膜のやうな處が眞赤に腫れて、爛れて、潰瘍などが生々しく出來て居る處を自分で鏡でゝも御覧になれば、鹽漬の野菜などをどん／＼召上れとお勸めしても、恐らくその勇氣は出まいと思ひますが、腸のやうな目に見えぬ處、口から少し隔つた處になりますと、二三日間不消化物を禁じなけ

ればならぬと注意しても、平氣で禁を犯すのであります。つまりこれは前述の腸加答兒の病理が觀念に無いからの事であります。

扨て斯様な病變が腸にあると如何なる事が現はれて來るか、卽ち腸加答兒の症狀は如何なるものであるかと申しますと、急性と慢性とに由て模様が違ひ、又原因に由り、腸の部分に由て種々の相違はありますが、時節柄最も多い又最も注意すべき急性腸加答兒に就て概括的のお話を致します。

急性腸加答兒の時には下腹が張つて、ぐう〳〵鳴り、時々疼痛が起り、下痢すると云ふのが主要の徴候でありまして、痛疼はなか〳〵劇しいこともありますが、必ずしも常に甚しい疼痛が起るとも限りません、併し下痢は必發の症狀でありまして、一日二三回より十回乃至數十回にも至り、粥の如く、又水の如くなつて多量に粘液を混じ、泡沫を交へ、往々血液を混じて來る。體溫は必ずしも昇るものではありませんが、時として熱が高くなることがあります、熱は殊に傳染性のものに多い、而して甚しく口が渇き、四肢が冷厥て、眼窩が陷沒み、心臓の働が弱り、脈も惡くなり危險に陷る場合もあります、特に小兒に於て危險が多い。

以上は主として廻腸と結腸の侵された場合の症狀でありまして、若し十二指腸炎も起つた場合には黄疸が始まります、これは前に申上げて置きました通り此處には輸膽管と云ふて、膽汁を腸に注ぐ管の口が開いて居る。而して膽嚢から膽汁が出て來る、その流れは極めて弱いものでありますから、僅かに輸膽管の部分に故障が起つて、この膽汁の腸に出るのを妨げますと膽汁は逆に血液の方に吸收されるやうになりまして、玆に全身が黄色になる、卽ち膽汁の色素が現はれて來るのであります。斯様な理で黄疸は起るもので、一個の病と云ふべきものではない、全く症狀である、故に種々の肝臓の病氣、膽嚢及び輸膽管などに變化があつて膽汁の腸に流れるのを妨げさへすれば黄疸が起る、十二指腸加答兒の際に黄疸

の起るのも全く此の理に由るのであります。更に上に至つて胃も共に侵される場合には、下痢のみならず惡心及び嘔吐、即ちむねが惡くなつて頻に吐く、斯樣な場合には往々「コレラ」と誤られることがあります。若し又下の方に至て直腸加答兒を起すときには、裏急後重と云ふて頻りに便意を催し、排便しても又直ぐに催し、而かも思ふやうに排便がなく、その度毎に疼痛を覺えると云ふやうな非常に不快な症狀が起つて參ります。其他腸の部位によつて種々の相異はありますが、要するに腹痛と下痢が主な症狀であります。

それでは斯樣な急性腸加答兒は如何にして起るか即ち原因はと尋ねますと、「コレラ」の如き傳染病性のもの、又下劑や化學的の藥品の如き物に由て起る場合は別として、普通は腐敗した肉類、黴りかけた麥酒、牛乳、未熟の果實、不適當な料理、食ひ合はせの宜しきを得ざる、又食べ過ぎ、其他氷水の如き甚しく冷たい物を食べたりする爲に起るのであります。

故に飲食物に注意し、腹を冷やさぬやうに日常の生活法に於て攝生を守らねばなりませんが、殊に夏季は一層用心し、就中小兒や老人は普通の腸加答兒でも容易に危險に陷りますから、周圍の人々が十分氣をつけなければなりません。

若し起りました時には、兎に角惡い物を吐いたり下したりして胃腸を掃除することが必要ですから、妄りに賣藥の下痢止などを用ゐてはなりません、必ず早く確かな醫師の診察治療に依ることが必要であります。但し腹の下つて痛む場合に、熱湯に浸して絞つた「タオル」を腹に貼るとか、懷爐で腹を溫めるとか云ふことは差支がない。醫師の診察治療に依て一旦腹痛が止み、嘔吐や下痢が治まりましても、其後の攝生が大切である。もう治癒つたと云ふて直ちに前の不攝生を始めますならば忽ち再發し或は一層劇烈な症狀を發し、又は慢性症にして仕舞ひます。場合にもよりますが、先づ通常急性腸加答兒を起しま

した時には第一日は全く絶食して、悉く腸の内を掃除し、次の日は重湯とか稀薄い粥位にし、それより病狀次第にて徐々に普通食に移るやうに致さねばなりません。脂肪の多いもの、酸味の強いもの、又辛いもの、纖維の多い野菜の如きものは病狀の全く無くなる迄は食べてはなりません。牛乳も感心致しません。殊に恢復期になりますと非常に食慾が盛になることがありますが、此時に氣をつけませんと又忽ち再發し、或は治癒し難い慢性症にして仕舞ふことがありますから注意を要します。

此他腸の病氣と云へば、なか／＼種々のものがありますので、幾ら簡單にお話しても到底此處に盡すことが出來ませんから、今回は單に目下最も多い急性腸加答兒だけに止めて置きます。

抄録

飯と麵麭

農學博士澤村眞述（東京小間物化粧品商報）

澤村博士は榮養、風味並に經濟上より飯と麵麭との優劣を比較し、妥當なる結論を與へられたり。

食物の優劣を　比較するには三つの點より見ねばならぬ。其一は滋養の價値で其二は風味其三は經濟である。先づ飯と麵麭との化學的組成と滋養價値とを比較すれば、

消化の程度は飯と麵麭とは殆ど變りがない、飯は水分六四％位を含むが麵麭は三七％位に過ぎぬから同じ分量中の養分を比較すれば麵麭の方が滋養價値が多い。熱量から云へば飯一杯（四十匁）は麵麭の二五匁に相當する食麵麭半斤は約六十匁であるから白米一合強に匹敵する、麵麭は飯に比すれば蛋白質の少

し多いこと丶ビタミン(オリザニン)の如き刺戟素の多少多いこと丶は優つて居るが一方には麵麭は灼くとき必ず多少焦げ其焦げたる部分は最早養分でなくなる點は劣る所である。

滋養の點では　二者大なる優劣はあるまい、又風味のことは人々の嗜好によつて異なるもので西洋人は必ず麵麭が旨いと云ふであらうが日本人の多數は必ず飯がよいと云ふのであらう　故に風味の優劣は先づ水掛論である

次に經濟の點であるが、飯には必ず副食物を要すれども、麵麭なれば砂糖かバタがあれば食へぬことはないから、副食物の經濟には多少なるであらう。しかし麵麭半斤と米一合と匹敵するとすれば米一合二錢弱に對して、麵麭半斤四錢であるから麵麭の方が高い。しかし國家の經濟から云へば何うであるか、或人は日本では米價の亂高下がある爲め、米を作る百姓も米も買ふ町人も困るから米食を止めて世界共通の食にしたならば此不利益が除けるのであらうと云ふ。なるほど主食物の價格の平等を保つ上には、此方法は良いに相違ない。しかし、土地の生產力から云へば如何であらうか。米作では一段歩から約七十三萬カロリの養分が取れるが、小麥を作つて、麵麭に製すれば僅に三十萬カロリを得るに過ぎない、されば國內に生活し得る人口は米食をした場合に遙に多數である。日本が土地のあり餘つた國ならば麥を主食物としてもよいが土地の割合に人口の多い國であれば、一定の面積からなるべく多量の養分を生產する作物を作るのが。國家の利益であらうと思はれる。又元に返りて一家の經濟關係から云へば麵麭食は家婦の仕事を減ずる利益はある。西洋の町では麵麭は麵麭屋から買入れて各の家では燒かぬ。それで。

臺所の仕事を減じ此時間を內職なり何なりに利用することが出來る併し飯では飯家で炊いて配達することは困難であり、且飯は方々持步かれては何となく汚く感じ、麵麭なれば一寸塵がついても分らぬから

汚く感せぬので配達に都合がよい。しかし亦麪麭は手摑にする爲め傳染病などを傳へる危險の伴ふことを覺悟せねばならぬ、製絲工場などで忙しいとき、工女に仕事しながらビスケットを食はせるのは時間を節約するには都合よく、これも飯なれば不便で行はれ難い事である。かく飯と麪麭には一利一害があるから國民の食物は飯とか麪麭とか限らずに、場合によりて兩者を選ぶのが最もよい仕方であらう。

齒刷子の話

石井生述（齒科學報第二十二卷第七號）

現今殆んど普く一般に使用されてゐる齒刷子は、今から約百六十年ばかり前、初めて發明されたもので、それが我國に紹介されたのは最近四十年來のことで、其以前は一般に房楊枝が用ひられたのである。此房楊枝は西洋に於ても齒刷子の出來るまでは可也廣く用ひられたもので現今でも極く邊鄙な地方では稀に用ひられてゐるさうである。然し現在主として使ふのは比律賓人、波斯人、南阿土人、南米土人等で、日本でも時に用ひられる事がある。又印度の一種族は毎朝必ず新らしい房楊枝を用ひて齒牙を清掃し使用後は之を折つて棄てゝ仕舞ひ、一度使つたものは決して再び使用せぬ風習があるとの事である。房楊枝の使用は口中を淸掃する際、幾分の壓力を加へる事が出來、從つて先端の纖維が齒齦部を輕く摩擦するやうになり、且つ價格が低廉なので一遍使へば惜氣無く棄てゝ仕舞はれるため、衞生上からは極めて理想的であるが、何分先端が柔らか過ぎるのと纖維が脫けて齒の間隙へ挾まり易い缺點があるので齒刷子が發明されて以來段々驅逐されてしまつた。尙ほ歐洲に於ては昔は此房楊枝の外に「リンネル」の布片も用ひられた。

さて齒刷子は前述の通り比較的近代發明されたものであるが、年を經るに伴れて段々其の使用が盛になり今では到る處日常缺くべからざるものとなつた。

從つていろ〱の種類が出來、其の各部分の形狀品質も實に千差萬別の有樣である。然し其頭部に用ゐる毛は、稀に狸その他の毛を用ひるものもあるが、大體豚の毛に限られてゐるそこで齒刷子其他の刷毛に用ひられるものは、歐羅巴細亞の二大陸、殊に歐洲の森林地、中央亞細亞の高原地。亞伯利亞の荒地等に棲息する野生又は半野生の豚から刈取つたもので、露西亞、支那、西伯利亞、印度、羅馬尼、波蘭などが主な產地である就中露西亞の寒地に棲息するものは其毛長く且つ質も可いので最上品と認められてゐる。此等の豚は夏季に於て群をなして森林中に追ひ込まれ、其處で柔かな樹の根など喰つて棲息するのであるが、身體を樹幹に擦付けて毛を脫落する。附近の百姓は其毛を拾ひ集め、食肉用に殺したものゝ毛と一緒に蓄積して置くと、豚毛の行商人が廻つて來て之を買取つて行くのである行商人は甲の村から乙の部落を段々に買集めて、自分の根據地へ引上げ其處から馬又は牛に積んで隊商を作つて市場へ運送するのである。

豚毛を主として取引する市場は、獨逸のライプチッヒ露西亞のニヂニノヴォゴロッドの二市で、殊に後者は世界最大の市場として知られ、千八百十三年以來每年七月十五日に開場し、九月十五日に閉場し、西は獨逸より東は支那に至るまでの、各國の商人此處に蝟集し、開市期三ヶ月間の取引高一億八千萬圓に上るといふ事である。市場は防火壁に圍繞されたる一大巨堂にして、內部に六十棟の小舍、二千五百餘の仕切室を有すといふ。此市場に前記の通り僻陬の地から買集めた豚毛を持つて隊商が、續々集まつて來る。又それを擇り別けたり洗つたり束ねたりするそれ〱の專門業者も來て、取引が開始されるのであるそが刷毛製造業者の手へ渡る時は、毛の長さ平均五吋位で直徑二吋乃至十二吋の束になつてゐて、色は黑鼠、黃、白等數種に分類され、白色のものが最も賞用される。刷毛業者は此等の毛を洗滌したる後、漂白し梳り乾燥し消毒し且つ長さに應じて

擇り別け、それ〳〵の用途に向けるのであるが毛の彈力性を保留するに多大の注意を拂ふのである。

斯の如く精製された豚毛は、生え際に近き太き部分は所謂本口"Butt-cut"と呼ばれ、最硬最良にして多く頭髮用刷子に用ひられ、其次の部分は少しく細く主として齒刷子に向けられ、最先端は先細"Tips"と稱し、油畫用の刷毛を用ひられるのである。

豚毛の價格は毛の長さと硬さと色に依つて定まるのであるが、一斤一圓から百四十圓まである程其の品質に差異があつて、概して長いものが刷毛業者に歡迎される。それは一本でいろ〳〵の用途に充てる部分が取れるからである、相場は目下の處騰貴するばかりで、最近數年間に約二倍の價格となつた、主產地が戰爭のため供給不足を告げてゐるからである。

妊娠分娩產褥時の攝生法

醫學士佐藤得齋述（衞生新報第十四卷第百八十九號）

中年婦人の健康增進法と云ふ題の下に主として妊娠分娩並に產褥時に於ける注意と攝生法とを說けり。

第一　普通妊娠時の注意

（イ）妊娠はどうして分るか

素人でも四月五月となれば分りますが我々專門の者が妊娠の徵候として婦人の全身及生殖器に起る變化の内で之を斷定する價値によりて三通りに分けて在ります。

其一は妊娠の時に起る者には違ないが外の病氣の時も起り又男にでも起る徵候ですから幾分妊娠ではないかとの參考にはなりますけれど甚不確な者です。

其二つ目は半確徵と申しまして妊娠の爲めに婦人生殖器に起る變化を云ふのですが此等の徵候も必ず妊娠でないと起らない者ではありません此等があつても尙確かに妊娠とは云はれません。

其三つ目は確徵と申しまして何時でも胎兒がないと起らない變化を云ふのです卽ち胎兒の體の部分を明かに觸れるか又胎兒が動いて居ることを外から觸れる

か又胎兒の心臟が打て居る音を聞くかです此三つなり其内一つ丈でも分ると妊娠であることが確かです。此確徴が分る様になるには少くとも五ヶ月の末か六ヶ月に入らないと起らない者ですから其頃になれば醫者でなくも素人でも大抵は分りますソコデ私は素人方に申上たいのは前に述べました不確徴と半確徴の多數が表はれて居れば先づは九分通りは妊娠と思ふて宜しい例へば月經閉止し惡心嘔吐あり子宮が大きくなり乳房が大きく且つ著色し之を押すと水の様な汁が出るとか云ふ様では大抵妊娠と思ふても間違ありません但し又稀には想像妊娠と云ふて餘り子供を設けたい〳〵と一心に思ふ婦人では妊娠もしないのに丸で妊娠した様に月經も止り惡阻の様な症狀を訴へ腹部も時として少しく膨大して來り胎兒の運動を感ずる様な氣のすることもありますから餘程注意せぬと間違ることがあります。

（ロ）妊娠月數と分娩時期を知る法

妊娠月數を知る法は醫者や産婆であれば其月の末に於ては子宮の大さが凡そ何程なると云ふ見當が付いて居るので分りますけれど素人では其れが出來ませんから其月に相當なる頃特に起る徴候から之を想像するより外仕方がありません先づ順序を追ふて申上て見ると一ヶ月の末にあつてはドウカ此月には醫者でも確かな斷定が出來ませんから勿論素人には分りません二ヶ月になると重いか輕いか大抵の妊婦は食機に異常あります此徴候も三ヶ月に入りて初めて起る人もありますけれど多くの人は二ヶ月目頃からそろ〳〵初まり三ヶ月に亙りて此氣分があります故に斯様の徴ある頃は先づ二ヶ月か三ヶ月と思ふて間違ありません、第四ヶ月に入ると妊娠子宮が膨大し小骨盤腔を充しますから場所を狹めらるゝ關係から尿意頻數となります此徴あるは確かに四ヶ月になつた證據です。第五ヶ月になると子宮は大部大きくなつて小骨盤から大骨盤の上に出で素人にも善く下腹部に瘤の樣な固まりを觸るゝ樣になります而して如何に初妊婦でも此月から胎兒の運動即ち胎動と稱する

者を腹部に感ずる様になります六ヶ月から先きは子宮底の高さによつて定めます而して六ヶ月だと妊婦仰臥の位置で子宮最高部が臍窩の高さに達しますし七ヶ月だと臍窩から人間の指三本並べた丈けの巾上になります。又八ヶ月では臍窩と胸骨の劍狀突起との中間に子宮最高部に達し、九ヶ月では心窩まで至り十ヶ月では反對に又々八ヶ月の時の高さに降りますけれど其代り子宮底は前方に傾きます、故に六ヶ月から先は七八九と重なるに從つて追々と身體の運動特に呼吸が苦しくなり九ヶ月は最も苦しく又胃部も押し上られて食慾も減少します十ヶ月になると胃部は却て開きますけれど子宮底前方に傾くから上半身を後方に傾けて平均を取る様になり又胎兒先進部が下降して來るから又々尿意頻數となります此樣な相違からして大凡素人では其月數が想像されます。

次に分娩の時期を豫知する法としては最終月經の初まつた日を基點とし之から妊娠の一ヶ月即ち二十八日宛十ヶ月二百八十日を計上すれば分娩の日に當りますが我々専門家が普通早分り法として常に用ふる方法は最終月經のあつた月から三を引くか九を加へて分娩の當り月とし又最終月經の初まつた日に七を加へて分娩の日とするのです例へば最終月經が五月の十五日から初まつたとせば五から三を引いて二となり十五に七を加へて二十二となる故に此分娩は二月の二十二日は當り日となる譯です又最終月經が二月の二十日に初めて見たとせば二に九を加へて十一となり二十に七を加へて二十七即ち十一月の二十七日に當る譯です。

(八)產婆の選擇

第一產婆には熟練と云ふことも必要ではあるが其れよりも特に大切なことは消毒です產婆として消毒を等閑にする樣では最早其人は產婆の資格のない人と云ふても宜しいのです。

第二は熟練で產婆の未熟の爲めに未然に防ぎ得る障碍も取り去り難く又は大きな裂創等を造りて產婦に非常に損害を與へます。

又産婆は成るべく近くに限ります然し近いが宜しいこ云ふて今四五丁離れた所に適當な産婆のあるのを知りつゝ其より下手な近い産婆を頼むは甚だ愚の至りです。

私が思ふには産婆を選むには知り合の産科醫に其人選を依頼するのは最良の方法だと思ふ如何となれば依頼を受けた産科醫も自分の推擧した産婆に若し間違があつてはなりませんから屹度其近傍でも最も信用を置ける者を紹介するし又産婆の方でも醫者の紹介であつて見れば自分の過失が引いた其紹介を受けた醫者にまでも及ぼしますから念にも念を入れて分娩を取扱ひます此兩方の注意の周到は相俟て屹度過ちのない樣になるからです。

(ニ)醫者にも見せよ

普通妊婦は五ヶ月になると第一に産婆の手に掛り岩田帶をして貰ふ而して其から先は毎月少くとも一度多くは兩三度産婆に見て貰ひますが時こしては轉位俗に云ふ逆產。又前置胎盤を云ふ恐ろしい結果を來す分娩其他疾病並に母體の異常等も醫者であつて初めて分る事が色色ありますから妊婦は數度醫者に診察を訪ふて異常の有無を確めて置く必要があります。

(ホ)分娩の準備

分娩に要する物品は素人が色々こ氣を揉んで不充分なる準備をするよりは信頼する産婆に依頼し一切準備して貰ふ方が最も安心です。

此準備中で拙者が御推擧致したい者が一つあります之は消毒鑵の購買です之を一ヶ丈けでも御求め被下いましたならば産婆は分娩の節必要な者こ産褥に使用する者こを入れて自分でか又は懇意の醫者に頼んで消毒して貰ふ此の如くして消毒した者を使ふて頂くこ一番安全で先づ以て産褥熱を防ぐこごが出來ます。

次に必要なるは手洗鉢です少くとも三ヶ以上で然も成るべく大きな鉢の準備を願ひたい。

又產室は成るべく廣く明るく空氣の流通の宜しき處

を選んで欲しい。

産牀は出來得るならば寢臺が宜しいけれど其れでなければ牀を成るべく高くして醫者や産婆が分娩の內助及手術等をするに勝手の宜しき樣に少くも疊より一尺位高くして貰ふと至極便利です。

第二　普通妊娠時の攝生

（イ）精神の安靜（附胎敎）

妊娠中は肉體上に種々なる變化を起すと同じ樣に精神上にも色々な影響を及ぼします故に妊娠中は特に精神の安靜は甚だ必要なる一條件である成るべく精神を平靜に保ち外界の刺戟を避くることが大切な事と考へて欲しい。

（ロ）入浴と腰湯

どんな健康な人でも不潔にして宜しい人はありますまいが殊に妊婦は清潔に保つことは最も大切なる要件の一つである每晩入浴しても決して害はなりません但し餘り熱い湯に長く這入つたり又反對に餘り微溫い湯に短く這入るのは害あつて益ありません普通異常のない方は成るべく清潔に保つべく全身入浴を每日なさる方が宜しい但し分泌物が多いからとて一日數回入浴するは却て害あります。

次に坐浴即ち腰湯でありますが私は此腰湯によつて大變不幸の轉歸を取つた數例を記憶して居る未だ分娩時期に達せぬ妊婦が腸の爲め少しく下腹の痛みを感じた然るに素人考で之を冷えた爲めだと思ひ腰湯を連日數回使ふた結果胎盤早期剝離と申す恐ろしい出血を伴ふ不幸を招ぎ遂に子供をも失ひ母體に危險を來した數例を實驗して居ります故に私は腰湯は絕對に斷り冷えた樣な場合は成るべく全身浴をなさしめ全體に溫まる樣お勸め致します。

（ハ）運動と乘物

普通の家庭にありては何も妊娠になつたからとて急に是迄の生活狀態を改め活動を控へ目にしたり又反對に烈しき勞働をする必要はありません。

次に乘物ですが之を餘程注意して頂かなければなりません萬已むを得ぬ時は成るべく妊娠初期五ヶ月迄

を避けいよ〳〵末期になつて何時分娩しても胎兒は生活を遂げ得る程の月即ち九ケ月か十ケ月になつて旅行し旅行先き即ち落付く先きで直ちに分娩しても差支ない樣に準備を整えて行かるゝ方が宜しからうと思ふ其間の月六ケ月から八ケ月位の間は少しも異常のない妊婦では四五時間位の汽車旅行ならば大して害はない樣に思ふけれど醫者として相談を受けたとせば何時の場合でも受合は出來ません。

（ニ）著衣と溫保

少しく寒いと思ふたならば手數をいとはずに重ね著することを怠てはなりません法外の厚著は却て害ありますけれど、容姿を繕はんが爲めに特に薄著するなどは大禁物です又直接肌に觸るゝ襦袢及腰卷腹帶の如きは充分清潔乾燥した者を使用するの要あります。

次は腹帶ですが我國の習慣として必ず五月目に著帶する規則になつて居りますけれど學問上から云へば特別の場合の外殆んど必要ありません。

（ホ）妊娠中の飮食物

妊娠中は特に胃腸病を起し易い者ですから一般的に申上ると第一不消化物、刺戟性の香料藥味を避け瓦斯を造らぬ者及餘り脂肪のない蛋白なる者を取て貰ひたいと云ふに過ぎません決して急に平常の食物を改むる必要はありません只平生の食物の内で前述の害ある者を避け滋養に富んだ者を選み能く咀嚼して食して貰ひたい。

第三　普通分娩の注意

（イ）分娩開始は如何にして分るか

妊娠の末期になると胎兒は骨盤に下降し立居に困難になつて來ますし又時々妊娠子宮全體が收縮を起し固く張て來ます此の如きは抑も分娩の下地で此固く張ることは追々と度數を增し初め一日一二度なりし者が一日十數回になります然し此際は固く張ても未だ疼痛を伴ひません若し此收縮時に少しづゝ疼痛が加ふる樣になればいよ〳〵陣痛が起つた印で分娩の開始と心得て産婆に通知しても宜しい時期です然も

其疼痛が一定時間を從て繰り返し〱起る樣であれば必ず分娩が其れに續いて來ります又能く素人の目標となるは丁度其分娩のある日に血液を混じた分泌物を見ることです其時は未だ痛みはないけれど前申上た固く張る爲めに子宮口の近くに於て卵膜が幾分剝離して其場所より少量の出血を起しますから此血樣分泌物を見るは矢張分娩開始の徴と思ふて宜しい。

（ロ）醫者を立會しめよ

一體分娩は普通順調に經過し僅か許り產婆の介助があれば圓滿に終了する者で未開人などは人手を借らず自分で分娩し自分で初生兒の始末をする者であると云ふて仕舞へば其れ迄であるけれど分娩時には產婆は勿論必要で尚其上に安全を期するには醫師の臨牀を求め其監視を受くることは必要なることゝ思ふ。

（ハ）責任者は在宅せよ

分娩は前申述べた通り何時危險が突發せぬとも限らぬから此際良人なり兩親なり其妊婦に對し責任を負ふ方が是非在宅して貰ひたい又已むを得ぬ要事で外出するにしても其行先を明かにし何時でも歸宅出來る樣にして欲しい。

（ニ）消毒と淸潔

分娩が近づいたと思はれたならば先づ髮を洗ひ分娩後頭部を輕くする準備をなされた方が宜しい而していよ〱分娩が開始され懸つたならば新鮮の溫湯に全身浴をなし殊に外陰部及其周圍を淸洗し、淸潔なる衣服と著替へ又臥牀にも同樣淸潔なる敷布を敷きて橫たはり而して產婆に兩便の排泄をして貰はれた方が宜しい。

第四　普通產褥時の注意及攝生

（イ）產褥の消毒は最も嚴重を要す

分娩が濟んだならば先づ消毒藥に浸したる消毒綿を以て血液其他汚穢物を淸洗し消毒して居る脫脂綿なりガーゼなりを當て其上を更に丁字帶を以て掩ひ次に汚された寢衣及臥牀を去り新たに淸潔なる敷替及

寢衣と交換する之にて產婦も淸々しくなり苦痛を除かれ一段落が付いた譯である然し乍ら分娩後は惡露と稱し血液及子宮內より排出さるゝ分泌物の爲め常て物は汚される者であるから一日に五六囘は必ず充分消毒したる手指を以て消毒淸潔にし其上に矢張上述の消毒したる綿又はガーゼを交換しなければなりません。

(ロ)精神の安靜及睡眠

分娩が終り局部を淸潔にし敷替を終つたならば成るべく周圍を靜かにし騷々しきを避け產婦をして安眠せしむる樣注意しなければならぬ。

精神の安靜は特に此期に於て大切なる一要件です凡て精神を興奮せしむるは良き事でも惡き事でも一切禁物です殊に初日から兩三日間は御祝ひの客で然も氣を使はねばならぬ樣な人は凡て面會を謝絕し世話する者は產褥に馴れた看護婦は最も宜しいが然らざる時は其產婦の母か姉妹に任せ家族殊に良人は勉めて心神を慰め外泊とは遠方へ旅行するを避け出來る丈け慰安を與へんことは必要です。

(ハ)乳房と授乳の注意

乳房の保護は授乳する褥婦に取りて甚だ大事の一つです先づ乳嘴は授乳の爲めに往々怪我する者ですから豫め乳嘴を硼酸水或はアルコールを以て屢々洗拭し上皮を丈夫にする斯くすると分娩後哺乳せしめても乳嘴の尖端に水泡を起すことを免れ無事に授乳が出來ます若し不幸にして乳嘴に水泡を來し又は其基底部に裂創等を起したならば決して放置することなしに直ちに醫治を受けられた方が宜しい、

又授乳の前後には必ず硼酸水を以て乳嘴を拭ひ淸潔にして哺乳せしめ授乳後も亦同樣に洗拭することが必要です。

又乳汁分泌の不足な方は必ず先づ兩乳房を吸はしめ不足分は牛乳にて補ふ樣にしなければなりません乳汁と云ふ者は吸はれぬと出ぬ者で吸ふことが卽ち刺戟となつて分泌を促す者ですから、未だ溜いない故今度一度は牛乳として此次に張てから吸はせると云

ふ考では必ず追々と分泌が止まる様になります故に不足な人は不足な程乾度哺乳の度數を多くする様に心懸けらるゝことが肝腎です。

（ニ）離牀と入浴

古來後ら二十一日間は安靜を要するとしてある其後は特に身體の動搖のない限り家屋内の行動で宜しかろうと思ふ。

普通の經過を取られた方では二十一日後は牀に居たり離れたりし全く離牀するは四週間を經ば確かに安心です。

入浴は如何昔は一週間目に座浴を行ふた者ですけれど之は甚だ危險で決して行ふてはいけません。

寧ろ二十一日以後に分泌物に血液の混入なき時を待て全身浴を取つた方が宜しい。

（ヘ）排尿と排便

日本人は潔癖であるから牀中で排尿することは仲々出來ない然し成るべく長時間に渡らぬ樣に排出することが必要です若し仰臥をで排尿出來ぬ樣ならば差支のない限り上身を起し便器に跨がり便所にある時の位置を取らしむれば大抵は出ます。

大便は一兩日は排出なきも宜しい而して多くの褥婦は運動のなき爲め數日間は自然の排便を望まれない故に若し三日目四日目で排便なき時は灌腸を行ふか緩下劑を服せしめて便通を促すべき者です餘り長く溜ると尿と同じ樣に子宮收縮を妨げます。

（ト）產褥の食物

妊娠時の飲食物と大した差はありません然し褥婦には運動が更にありませんから著牀中は特に注意して消化し易き者を選ぶ必要がある。

更年期に於ける婦人の衛生

ドクトル近江湖雄三述（衛生新報第十四卷第百八十九號）

私は高年の人に特に起り勝な惡性の疾患と、一度は何人にも來る月經閉止の時期に於ける前後の衛生に就て略述しようと思ふ。

更年期に於ける變化

女子の生殖機能は、三十年代の終り頃から次第に減退して、四十五六歳の頃になると消滅し始めるのである、卽一の革命時代が來る。然して今迄四週間に一度づゝ規則正しく發來した月經が、六週間に一度八週間に一度、或はそれ以上を經過して一度來るやうになる、從つてその月經の量も漸時減少してくる。然しながら一時其の出血の量は多く且長く持續して夫れから衰へるのもある。其中漸時減少して平均四十八歳になると全く中止する。其の月經の減少し始めてから中止する迄の經過は種々で、全く閉止する迄多少づゝあつてそれから閉止する人もあるし、又來潮する時期は規則正しくも、分量は漸々減少して遂に中止する人もある、又甚だ不規則で出血の工合は少量なるも間歇がなくその中中止する人もある、是等の狀は恰も子宮癌の症候に似てゐるから油斷をしてはならぬ。

身體の上にもいろ／＼と異狀の感を訴へて來るもので、卽皮下の脂肪組織は時々此の時期に增殖してくることがある、又逆上の感、全身の發汗、心悸亢進、眩暈、不眠。憂鬱、記憶減退、恐怖の感に襲はるゝなど、いろ／＼の症狀を起す人々があるが、中には又全くこれらの症狀を缺く人もある。これらの症狀は比較的强壯の人、身分のよき人、神經過敏の人に多いやうで月經は全く止んで後になつても長く繼續することがある　それで是等に對してどんな手當をしてよいか、第一今迄從事して居つた職業を休んで安靜を旨とし、郊外の散步を勸め、海邊や山間のやうな空氣のよい處に轉地をする、溫泉の樣な處は最も適當であらう。滋養分の多い食物をとつて酒や茶「コーヒ」の類はあまり用いぬ方がよい。便通を每日整へるやうに注意することは尤も肝要である。

更年期に多き疾患と其注意

子宮癌と云ふものは比較的高年の人に發する尤も惡性の疾病である　云ふ迄もなく今日癌と名付くる凡ての疾病は何れの部分に發生するにせよ治療の時期

を失すると致命的のものであるが子宮癌は幸に早期に診斷することが出來て完全なる治療を施すことが出來れば全治することの出來る場合もあるが専門家の診を乞ひに來る時は過半根治手術の時期を失して居る。

子宮癌治療上の注意

不正の出血、腰痛下肢の放射性の疼痛又は惡臭を有する帶下を見るやうになつた時は可成進行した時である。

一旦子宮癌と決定すれば根治手術の可能であるかを調べ直ちに之れが手術を行はねばならぬ今日に於ては子宮癌の治療としてそれ以上に完全な方法はないのである。X光線だとか「ラヂウム」だとか、種々光線療法もあるが、何れも完全と云ふわけに行かぬ、出血又は疼痛に對しては、「ラヂウム」の如きは無論效のあるに違ひない、兎にも角にも早期に癌であると云ふことが分つて、出來る丈け早く手術を施すのが、最も緊要であるのに實際其の適當の時期を過らずに、治療を施すものは實に少數なのである。

初期の受療が肝腎

私等の遭遇するものは初期の癌腫が手術を施さるることがなく、空しく内服藥を用ひ又は腐蝕藥を外用せられて症狀が大に進んで後に初めて治療を請はるゝか、或は醫師が忠實に助言しても患者又は其の家族の意志決定せずして遷延し、或は諸醫を歷訪し諸症が大に進んだ後に始めて全治の方法を望むやうな場合が隨分多いのである。之れは社會文化の程度と聯關する問題であつて一朝に其進歩を望むことが出來なくとも、懇篤なる誘導によつて子宮癌腫の恐るべきものなることゝ、早期に治療を施すときは全治の目的を達しうることを理會せしめ、直ちに適切なる治療法をうけしむることは醫師の務めであらうと思ふ。

雜報



○害蟲驅除の告諭

夏季衛生に關し惡疫傳染の媒介たる蠅及び蚤を左の方法に依りて驅除するやう警視廳より告諭せられたり。

蠅の驅除法　（一）飲食物調理場、店舗等にて蠅の群集し又は産卵する場所は努めて防ぎ淸潔にすること（二）流し場又は下水溝の排水を能くし汚水を停滞せしめざること（三）飲食物を貯藏する場所は開放せざる樣注意し且飲食物には適當の覆を施すこと

蚤の驅除法　（一）室内洒掃の際は特に疊の敷合せ又は敷居際其他光線の射入せざる場所を淸潔にすること（二）淸潔方法施行其他の場合に疊を上げたるときは床板を淸潔にしたる上新聞紙の類を敷き詰め「ナフタリン」粉末等を適當に撒佈すること（三）寢具を努めて日光に乾すこと又殺蚤劑は石油四匁五分（約一勺）石鹼末四匁五分、溫湯四匁五分（約一勺）を適當の大きさの鉢又は桶の類に入れ能く攪拌し乳狀の液となりたる後溫湯九合八勺を攪拌しつゝ徐々に加ふること。

○保育講習會

文部省主催の保育講習會は左の通り開催せらるゝことゝなれり。

期日　八月一日より同十日迄

會場　東京女子高等師範學校

學科及講師

一、幼兒の傳染病豫防に就て（四時間）　東京帝國大學醫科大學教授醫學博士　弘田長

二、保育の手段（十時間）　東京女子高等師範學校講師　倉橋惣三

（一）保育手段の意義

（二）普通に行はるゝ保育の手段

（イ）音樂

（ロ）動作遊戲

（ハ）談話

（ニ）圖畫

（ホ）手技

（ヘ）實際生活

三、幼兒に趣味ある動物の生活（十一時間）

學習院助教授　太田順治

（一）飼育觀察に便なる魚類其の他の小動物に就て

（二）幼兒の注意を惹き易き昆蟲に就て

（イ）目に觸れ易きもの

（ロ）發音機を有するもの

（ハ）其の他

四、遊戲（理論及實習）（九時間）

東京府東京市麴町尋常小學校長　土川五郎

（一）幼稚園遊戲

（二）遊戲の基本的練習

（三）遊戲實習（十數種）

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は三人とす

一、講習員は地方長官之れを選定す

一、地方長官は講習員を選定したるときは本人の氏名、職名、講習を受くべき學科目を記載したる選定書を七月二十日までに文部省普通學務局に差出し講習員を開會前日までに講習會場に出頭せしむべし

一、講習員の資格は幼稚園長及保姆に限る

一、地方長官は定員以外に豫備員を選定することを得

一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其旨地方長官に通知す

一、講習を終りたるときは講習員の出席を査定して證明書を授與す

○虎列拉菌と魚の調理

權島海軍々醫少監が虎列拉と魚肉調理との關係に就て研究された成績の大要は左の如しと

一虎菌を含む海水中にある鹹水魚は、其腸內に虎菌の侵入を見る事多く、遊泳時間の極めて少い魚の腸內にも虎菌があり、死魚の腸內にも認むる事が多い夫れに對し魚腹を割き消毒藥を施しても殺菌の目的を達する事は殆ど不可能である、又魚體に附著した菌は消毒藥に對し抵抗力が極めて強い、又さう云ふ魚類を如何に調理すれば危險を防げるかに就て實驗すると、先づ燒魚は鰺鯛を燒魚及鹽燒として二回試驗し、其內一回はまだ少數菌の生存を認めたから流行時には煮魚とするのが最も安全である、酢漬は五回の試驗により四時間以上漬けねば安全でない事が分り、酢味噌づけでは四十八時間まで菌の生存活動を認め味噌漬では三回試驗中二回まで四日間生存

してゐる事を知り、醬油漬では醬油の種類によつて異なるが、山サ印を用ひて八日間菌の生存を認め、干魚では蠅を遮斷して乾燥させて六日後まで菌があり、氷漬では鯛切身を十五度乃至十七度の氷室に放置して三十二日迄菌の生存を認め、春陽程度の溫室に放置しては十四日迄菌が生存活動してゐるのを認めた。

○水中の細菌數

衞生試驗所技師の談によれば、東京市の水道、堀井戸及び河水中の細菌數は大凡左の如くであると云ふ最近の成績によると水道水の一瓦中に含有する細菌の數は概して百以下で、二十乃至三四十と云ふところが普通である、是れは上水の特長で、全國の上水も百以下と云つて可い、堀井戸は市内に目下一萬九千四十八個所あるが其成分は概して「アンモニア」分有機物が多いから夫れに相應して細菌數も多く一瓦中千二千は普通で一萬以上のも珍しくない、甚しいのは十萬にも達するが平均は五千四百七であるから市の堀井戸は全部飲用に適しないと云へるが、それでも使用してゐる戸數が九萬七千四百餘戸ある、河水の方は冬季より夏季が細菌が少いと云はれてゐるが六七八月平均の隅田川筋の水は兩國橋下が一瓦中十八萬九千餘、永代橋下が三十一萬二千餘だから驚く、下つて品川沖となると七萬である、外壕の水は六月中の平均で數寄屋橋下が約二萬である。

○水道使用者の注意

暑さの劇しくなるに隨つて水道の水を濫用する者が增加し兎もすれば斷水の虞ある爲市の水道課では使用者に對して夫々注意書を配付して嚴に其の濫用を戒めて居る、一體市の水道は山梨縣の水源地から送られた水を淀橋淨水場で濾過した上給水するのであるが夏期は水が汚濁し易いので明礬を一沈澱池に付一日百圓宛使用し其の經費は莫大なものだ、然るに使用者の方では一向お構ひなく濫に撒水に使用し又は栓を開放した儘にして置くので二百萬の人に對し一日一人の使用水量平均六斗として八百萬立方尺

を供給すれば充分餘剩を生ずる筈なのに濫用の爲め九百萬立方尺を超過すること屢々である、斯うなると芝、本郷の兩淨水場へ淀橋から壓力を加へず自然流下によつて間斷なく給水しても尚缺乏を告げ遂に斷水の餘儀なきに至るから使用者は成る可く濫用せぬやうにして欲しい。

○東京至誠病院の發展

牛込區市ケ谷の東京女子醫學專門學校附屬東京至誠病院は年々その規模を擴張し設備の完成に努め來れるが、今回更に傳染病室及びX線室を開設するに至り。

○私立大日本婦人衞生會例會

同會は去る九日午前十時よりお茶水高等女學校附屬作樂館に於て開會、午前中は宇野彌太郎氏を講師として料理法の實習をなし、正午會食、午後二時より醫學博士佐々木秀一氏は『窓の話』と題し、衞生學上に於ける窓の意義より論じ、採光及び換氣に就き諸種の窓の構造の良否を比較說明せられたり。右了りて散會したるは午後四時過なりき。因に當日出席せられたる本會役員は左の如し。

近藤　憲子　中濱　芳子　守屋千代子　天野多喜子
濱尾　作子　小川　孝子　田村　靖子　高木　錦子
宮木　樂子　鳩山　春子　三浦　教子　丹波　貞子
山本多穗子　武田　貞子　（以上出席順）

○新潟支會通信

新潟支會は去月二十五日地久節に方り他の婦人會と聯合し新潟諸樂館に於て祝賀會を開き百餘名の出席者あり、式後種々の餘興ありて盛大なりしと。尚ほ同支會に於ても例年の通り市衞生會と聯合の上本月十二日より海水浴場を開設したるが、本年よりは電話の設備もあり、水夫、事務員等を設け年々盛大に赴くは悅ぶべき事なり。

○入會者

○西ヨチ子紹介

靜岡縣濱名郡天王寺村大王　通常　高森みつ子

○轉居

下谷區より府下西大久保十七へ　小高艮造
京城より京城蓬町九へ　矢能イマ子
麹町區より府下、下澁谷伊達前千八百四十三へ　渡邊加壽子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多懐子
同 松平芳子
評議員 入澤常子
同 濱田捨子
同 原みつ子
同 西舛子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 小松いさ子
同 天野多喜子
同 菊池米子
同 宮本樂子

同 長谷川仲子
同 高木鎌子
同 三浦政子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 武田貢子
同 男爵夫人 南部隈子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 近藤憲子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵税壹錢
三冊（三ヶ月分） 前金郵税共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正六年七月二十二日印刷
大正六年七月二十五日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市本郷區駒込林町二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百三十二號（大正六年七月二十五日發行）明治四十三年十二月二日（每月一回）